

Volume 228
2018.7,8,9
TAKE FREE

楽しくなる、予感。

NIJ no HATA
PRESENTED BY
KYOTO INSTITUTE of
TECHNOLOGY
COOP STUDENT COMMITTEE
PUBLIC RELATIONS DEPARTMENT

虹の旗



虹の旗 1にじのはた 789月号 2018年7月4日発行 通巻第228号 ■制作/京都工業繊維大学学生協学生委員会広報局 ■発行/京都工業繊維大学生活協同組合理事会 住所:〒606-0962 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 電話:075-781-5359 ■印刷/株式会社きんこ印刷

チケットを買うなら生協まで

おすすめポイント

簡単に買える!

大学生協サービスカウンターでチケットを買うことができるので面倒な入金手続きなどが無く購入が簡単です。また公演日の2週間前まで販売を受け付けています。

安く買える!

通常料金より安い特別価格で買えるチケットがあります。

A席 5500円 → 4000円
B席 3500円 → 2000円

※ある宝塚公演の場合 ※A・B席のみ

過去取り扱い

イチオシは宝塚作品!

- ・凱旋門
- ・MESSIAH - 異聞天草四郎 -
- ・WEST SIDE STORY
- ・エリザベート - 愛と死の輪舞 -

など

お問合せ・お申込みは大学生協サービスカウンターまで

特集 Re:KIT

学長・教授・学生インタビュー / オルタスアンケート

ヒーロー 大川在浩
ヒロイン 中野安優実
部活紹介 写真研究部
街角宅急便 itou
KIT wiz TeChLover

KIT、再考。



虹の旗 Vol.228
2018.7,8,9

CONTENTS

特集

Re:KIT

- 02 INTRODUCTION
- 03 QUESTIONNAIRE RESULTS
- 05 INTERVIEW

- 13 生協 with Your Life
デザイン経営工学課程
大川 在浩 さん 今月のヒーロー
- 15 機械工学課程
中野 安優実 さん 今月のヒロイン
- 19 写真研究部 部活・サークルアーカイブス
- 21 TeChLover KIT wiz
- 23 お試し企画 京都ソリデール
- 25 itou 街角宅急便
- 26 今日のパズル 漢字ナンクロ
- 27 クローズアップ読者
- 29 Editor's Essay

HIGHLIGHT



工織の学風についてどう思う？

工織生についてどう思う？

工織の強みはなに？

工織の弱みはなに？

工織生がより良くなるためには
はどうしたらいいと思う？

あなたの思う理想の工織は？



たくさんの人に同じことを聞き続けた特集です。
自分の大学についてどう思ってる？どうなりたい？どうやったら？
工織をもう一度考えよう。

Re:KIT

オルタスで聞く。

オルタスにいた方にアンケートとしてお答えいただきました。ご協力いただいた方ありがとうございました。

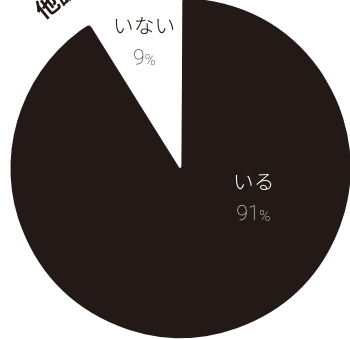
回答全体数 90人
男性 43人
女性 45人
不明 2人

応用化学 32人
応用生物 9人
電子システム工学 11人
情報工学 7人
機械工学 7人
デザイン経営工学 8人
デザイン・建築 15人

1回生 34人
2回生 33人
3回生 14人
4回生 6人
院生 1人

Data

他課程に友達はいますか？



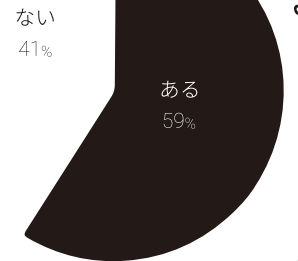
回答 89件

わずかですが他課程と関わりのない学生もいる模様。サークルや部活に入っている人は課程関係なく友達もできやすいかも。

回答 90件

約6割の人が他課程の授業にも興味アリ。4割の人はやりたかった勉強ができていないということでしょうか。それとももう勉強したくない？

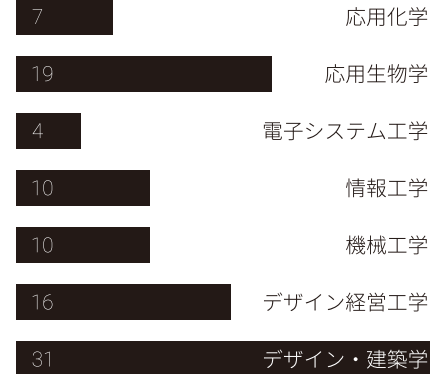
他課程の専門科目を受講してみたいと思ったことはありませんか？



回答 53件 複数回答可

全課程均等に聞けたわけではないため参考にしかりませんが、デザイン・建築が断トツ。デザイン経営とともに応用生物も人気でした。

それはどの課程の授業ですか？ 単位：人



なんと合コンという回答が4件も。男子比率の高い工学の課程でしょうか。授業や研究としての案から、交流を深めるための楽しそうな案まで様々でした。

他課程の人と取り組んでみたいことを教えてください！

合コン 学校改革に関するディスカッション
思い浮かばない **遠足 BBQ** ファッション講座
共同実験 授業や研究・作品をより気軽に見学したい
考え方の共有、幅を広げる **就職関連話**
モノづくり 遊びたい

工織の強みは？

就職・企業との結びつき
専門的な学習ができる
オタク友達が多い。
学校が狭く移動しやすい
人が少ない
落ち着いている
国立理系単科大学
院進しやすい所
学祭
教授が教育に積極的な人が多い
D-lab や製図室などの設備

工織の弱みは？

知名度が低い
地味
人が少ない
銀杏
課題多い
内向的
大学名
周りに何も無い
多様性がない
女性が少ない
課程外の関わりがない

強みとして上がったのは就職に強いこと、専門的であることなど。弱みとしては大多数の回答が知名度という結果に。規模、学生数などはどちらにも上がりました。

理想の工織って？

このままでよい
工織と言えば伝わる大学
全課程同じ苦しみ
周りが便利
デザイン性のある建物があればよい
大学名を変えてほしい
オシャレ
科学技術のトップ
他課程との交流がもっと増える
デザインと科学と工学が合わさって学生全体でもっといろいろ企画したい。

単位がとりやすい
研究が最新のものをできる環境
生協が校舎の中心にある
図書館に小説コーナーが欲しい
銀杏臭くないキャンパス
留学生との交流が多い大学
もう少し自由ができる
東西にキャップがない
きつすぎない課題
もう少し元気のある大学。大学規模のイベントをやるとか...

森迫 学長に聞く。



—科学と芸術の融合を目指す学風についてどう思うか？

非常に難しい問題だと思うけど、技術というものは最終的に人間が気持ち良く、幸福感を感じられるような無ければあまり意味がないと思うんですよね。科学だけで幸せになれるかということに対して、芸術というのは人間の感性であり文化である。両方を踏まえることを目指していることが非常に重要なことではないでしょうか。特に今の時代に良くあっていると思います。この科学と芸術の融合というのを言い出したのは法人化前の1990年代。少し先取りしていたと思います。工芸繊維大学という名前がそういう風にさせたと思うけれど、19世紀から20世紀にかけての産業革命以降、いわゆる科学というものの功罪は本当に人間にとって何なのかということを考えないといけない時代でした。

—工織生についてどう思うか

真面目だと思いますね。でも、真面目だけではなからうと。これは期待も半分含めてですが。最初からこの大学に来たくて来ている人、京都大学や大阪大学に行けなかった人、色々いると思いますが、一応自分で決めて来ていると思うので信頼しています。期待外れとか期待通りとかいう言葉も無く、そのままでいいんじゃないかと。ただ、ここへ来たなりに自分の力で伸びて欲しい。具体的なこうなってほしいという姿としては、TECH LEADERとかはもちろんあるんですけど、それも人それぞれで若干異なっているんじゃないかなと思います。

—強みは規模感。弱みも規模感。

—工織生がより良くなるためにはどうしたらいいと思う？

それぞれが自分の中を見つめ、社会を見ながら時間とともに変わっていく考えを大切にしたい。考えた理屈を自分でよく理解して欲しい。今何をしているかというのを楽しいからだけではなく、悔しいからだけではなく、何かちょっと考えてくださいと。先をしっかり見るのもそうだし、足元をしっかり押さえるのもそうだし、目の前にあることを考えるのもそうだと思う。ずーっと先ばかり見えても仕様がなくて。というように大学生活を送ってくればいいのかと思っています。あとは一つの面だけで人を判断しないこと。一人一人全く異なるものさしを持っているから、一人の人を判断するにも人によって全然見えるものは違う。色々な人の色々なものさしでその人が形成されるということだと思う。言語能力とはまた別の国際性、多様性を受け入れているということを手につけて欲しいです。

—工織の強みは？

規模が極めて良い。国立大学の中では小規模だけどそれが動きやすさにつながっている。大学改革という言葉の中でやっている内容としては、国立大学の中でトップランナーだと思う。評価も高い。ほぼ300人の教員と150人の常勤の職員と顔が一応想像できる。学生の顔と名前はもちろん一致していないんだけど、でもうちの学生だなあということは分かる。そんな状況で、非常にアクティブな活動ができていう強みがある。そして、何とんでも京都にあるというのは大きい。1000年以上の歴史の中で市民が継続的に考えてきたことがあるので、そういう場所にある大学は少ない。まあ京都にある大学はそうなんだけど、そのことを自覚しているかどうかという意味ではかなり僕は自覚しているんじゃないかなと思う。あと、国際性は非常に高まっている。そしてそれが大学全体として付き合っている。大きな大学だと一つの学部とか一つの研究室とかっていう風に限られてしまうだろうということがうちの大学はトータルでやっているなっていうのが見えているので良いかなと思っています。学生の強みはどうだろう。先生との距離が近いことだろうか。それを自覚して上手く付き合っているかどうかはそれぞれだと思うけど。好き嫌いもあっていいと思うけど、先生と話をするっていうのが大学の時に大事なことになるので、それが比較的しやすい大学なんじゃないかなと思う。

—工織の弱みは？

弱みは小さいということだね（笑）。小さいということ弱みだと思うから強みに変えようとするし表裏一体ですよ。小さいから金が無いと（笑）。他にも、社会的に最初に関係を持つのにけっこう苦労しますよね。皆が良く知っているわけじゃないからね。小さいからね。そこを改革できたらいいなと思います。今は日本の中での話とか京都の中での話とかよりも先に世界によく知ってもらおうという活動の方が多いかも。日本の関係者が世界に行くとKyoto Institute of Technologyの方を知っていて、それはどこにあるの？っていう感じのこともそろそろ聞き始めているので、まあいいんじゃないかな。この調子でいけば良いと思っています。

—工織がより良くなるためにできることはなんだと思いますか？

1人1人がしっかりすること。今日も色々な人と話す中で皆に言ったけど、高校までは決められた勉強の仕方をして、決められた評価で動いていたと思うんだよね。大学は先生たちがこういう風に教えたいと思って授業をやっている。だから教え方に決まりがない。先生も考えている。学生も考えなくちゃいけない。決められたことを決められたようにやっているわけではないので、1人1人が全く違った席に座っていくでしょう。そして一人一人が自分で考えないといけない。「大学の建築学科とかデザイン学科を出たら、どこの人も同じだ」というのは全く違うということのためには、自分たちが自信持ってやれるようにあるいは考え続けられる軸を今作るということが大事。

それから決められた人と会って決められた会話をしているわけではないので、大学生はそれぞれが全く違うバイトやサークルをして、課題の時でも他人と話をし、ということをしかりとやるってことも大事だね。その時に人間性が問われる。人間性というのは何かって言うと、自分のことをちゃんと律せられるかどうかだと思う。倫理的な話で。学問じゃないけどこれはやってはいけないことである、やらなくてはいけないことである、人が見てないからやってもいいんだってということじゃない、それがちゃんとできるようになってほしいなと思う。そんな偉そうなこと言えないけどね（笑）。でも、それを学ぶのが大学ではないかな。日本に大学が多いとかいう話があるけど、僕は決してそうは思わない。日本人のできれば100%が大学に行ってほしい。それだけの余裕を持ってほしい。そのことによって社会人になる第一歩として色々な人と会ったり色々な評価を受けたりして多様性の部分を少しでも知ることが大事で、いきなり社会に入って社会人になっちゃうと、そこにはそういうことを考えている余裕が無い。許されるなら皆行ってほしい。100歳まで生きる時代になっているから。自分たちの親だけ見ていたら見えないと思うんだけど、100歳まで生きるとしたら、今若い時に何かひっかかるものにぶつかったりずっとひきずったまま生きてもいい。いつも言っているんだけど、物事は一回一回解決しなくてもいい。それを持ち続けることが大事で、それが先で思い出したように考える。その元を考えるのは若い時で、それが大事やだって思う。何の話だっけ（笑）。よりよくなるためには、僕はみんなにそうやってほしいと思うだけですね。

—幸福感を感じられる技術でなければ意味がないでしょう。

—あなたの思う理想の工織は？

先ほど述べたように、世界的に知っていただくこと、学生、企業人、教員が混じり合っているキャンパスになることですね。企業の人にもっと来てほしいと思います。最初言ったように先生も学生も、僕らは何のために勉強して、技術開発をして、研究をしているか、考えて欲しい。最終的には人間の幸せを作りたいわけですよね。単に売れるからっていうのではなく、次の人間を幸せにするのは何だとか、こういうシステムがあったらいいよねっていう議論が大学の中で起こるっていうことが次の開発に繋がっていくだろうと思う。少なくとも利益追求だけの話に乗りたくないわけじゃないし、先生方もやりがいのある仕事をしてほしいし、学生もやりがいのある勉強をしてほしい。それはやっぱり単に自分だけを見てやるよりは、他の人の意見も聞くことが大事。企業人の方がむしろそこは弱いと思うんだけどね。逆に弱い。利益追求を要求されているから。でも彼らにも気が付いてほしいね。企業にとってもそれおもしろいっておっしゃっているけど本当におもしろいですかね、とか本当に良いんですかね、とか言う学生の素直な意見とかがあってもいいんじゃないかなと思うし。まあ今は考えないといけないこといっぱいあって、というのも産業そのものが全然変わってきつつあるから、20世紀の産業や技術が今どどんん変わっていているのを社会側からもアカデミック側からも常に見るっていう状況をやらないと。じっくりかまえていられる状況ではないから、僕らキャッチアップをすごくたくさんしなければいけない。遊ぶなって言っているわけじゃないですよ。遊ぶのも含めてです。僕らが遊んでいた内容と君らが遊んでいる内容は全く違って、なぜそんなことがおもしろいって思うことが僕はあるわけだけどそれはなぜなのかっていうのを本当はディスカッションすべきだろうとおもう。そういうことをやらないと企業側もわからないだろうし、先生も学生も企業の要求もわからないだろうというのがあるから、できるだけ混じり合うのがいいと思う。刺激はたくさんあった方がいい。

Profile

森迫 清貴（もりさき 清貴）
京都工芸繊維大学長
建築学教授
副学長時から地域創生テックプログラム等で大学改革に取り組む。

垣根を超える学生に聞く。

応用生物学課程として入学し、3回生まで応生として学業を続けた後
デザイン建築学課程に3年次編入した大坪さん、
デザイン専攻でありながら工学の学生の多い
本学学生フォーミュラチームで設計などで活躍する4回生畠中さんに話を伺った。



— どうして応用生物からデザ建に3年次編入されたんですか？

応用生物で学んだことを専門として仕事にしたいとは思わなかったです。そう思ったときに、自分は元々モノを作るのが好きで、編入する前の時期に建築系のインターンなどに行く機会も頂いたので、その繋がりで建築学科に行ってみようかなと思いました。どの仕事においても、一つの専門だけしかできない人は現代でやっていけないと思っていて、建築と生物の両方に専門性を持った人になれば色々出来ると思っています。別に建築だけがしたい訳でもなくて、色々なことを幅広くやってみたいです。

— 編入してどのような違いを感じましたか？

自分の理想を実現するという面から見ると、東側の人達は自分の意見をしっかり持って、ちゃんとやりたいことをやっている感じがして良いと思います。いい意味で真面目な人、授業で休まないとか、テストで良い点を取るとかっていう能力が高い人は西側の方が多いです。でも、もっとこういうことやりたいっていう意志とか、もっと自分たちで自分の学校生活をよくしていこうみたいなアクションを起こす人は東側の方が多い印象があります。

— 科学と芸術の融合を目指す学風についてどういう風に思われますか？

小さいころから数学と音楽が好きだったので、高校生の時に進路を決定するきっかけになりました。自分はもともと応生で入ったので、応生にいながらにして、芸術系の人脈もできたらな、という程度でした。様々なことを広く学ぶデザ建と、一つのことを深く掘り下げていく応生では、根本的に生き方が違うと思います。バイオアートの授業のような、表面上の融合はできるかもしれないけど、やっていることの方角性が違うので、本質的には融合できないんじゃないかな。

— 工織の強み、弱みについてどう思われますか？

他の大学より真面目な人が多いです。コツコツ努力して、真面目に授業を受けて、という人が多いので、そのぶん京都市内の地元の人には信頼されているし、企業への就職が強いと思います。

それが同時に弱みでもあるのかなと個人的に思っています。言われたことをきちんとやるのは得意だけど、自分で考えて動くことは苦手な人が多いんじゃないでしょうか。

— 工織生がより良くなるためにはどうしたらいいと思いますか？

良い会社に入るとか成績が良いとか、世間一般でこうした方がいいみたいな所があると思うのですが、そうではなくて、本当はどうしたいのかを、もっともっと自分で考えていく癖をつけたいと思います。

Profile

大坪 郁乃（おおつぼ あやの）

デザイン・建築学課程
建築学専攻 4回生

（応用生物学課程から3年次編入）

— 科学と芸術の融合を目指す学風についてどういう風に思われますか？

入学した頃は科学と芸術が思ったより融合してないなあっていうのにすごいショックを受けていました。デザイナーとしても中途半端になっちゃうし、機械系のことはまったくやらないんじゃないかって思ったんですけど、そういう風になりたかったら自分からうごかなきゃだめだなって思って。D-lab なんかのプロジェクトは全学生に向けて募集を広げているからそこに自分から踏み込んでいく人が増えないと融合していかないんじゃないかなって。学生の心持ち次第なのかなっていうところはあると重います。

— ご自分は融合していると思いますか？

したとは思わないですけど自分が入学したときにどっちもできる人になりたいと思ってたから、これからももっとできることの幅を広げていきたいと思うし、デザインにおいて、フォーミュラとかで得た機械の知識が活かされてアイデアの幅が広がることはすごくあるので、うまく自分の中で折り合いが見つかれば何か作ったりっていうのが面白くなると思います。

— 工織の強み、弱みについてどう思われますか？

強みは実践的なところだと思います。フォーミュラとかロボコンとか相当実践的なのかなって思って。それに、D-labは相当設備が整っている方なんじゃないかとおもいます。大学が24時間入れるからいつでも思いついたときに製作できたりとかデザ建なら製図室があることとか、作りながら人に見てもらって話しながらできるのがすごいいいと思います。

— あなたの思う理想の工織はありますか？

普段はしっかり棲み分けている、それが無くなるような感じだともっといいのかなって思います。フォーミュラとかがないと他学科の人とかと話す機会が無かったのかなって思うともっと交流できる機会があるとよくなったって思いますね。

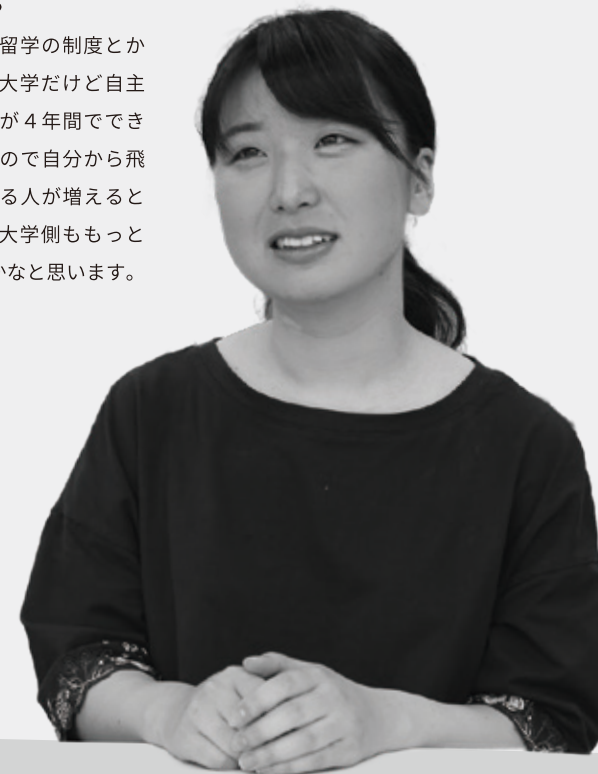
— 工織生がより良くなるためにはどうしたらいいと思いますか？

大学としてはいろいろ留学の制度とか環境が整ってて、小さい大学だけど自主性さえあればいろんな事が4年間でできる大学になってと思うので自分から飛び込んでいく気持ちがある人が増えるといいのかなって思うし、大学側ももっと発信する気持ちがほしいかなと思います。

Profile

畠中 美緒（はたけなか みお）

デザイン・建築学課程
デザイン学専攻 4回生
京都工芸繊維大学学生フォーミュラ
プロジェクトチーム所属



この大学にしかできないであろう、課程の域を超えたヒューマンインタラクシオンデザインという授業を指導する2人の教授に対談をお願いした。

榎 勝彦

デザイン・建築学
デザイン学教授

岡 夏樹

情報工学
インタラクティブ知能研究室教授

ヒューマンインタラクシオンデザイン

情報技術分野の学生とデザイン分野の学生が、設定テーマに対して協力し、互いの専門分野を基に一つのものを作り上げて行く修士1年対象の講義。

—どうしてヒューマンインタラクシオンデザインという授業を立ち上げられたのですか

K:榎教授(以下K):岡先生がはじめに私の研究室に電話をかけてこられたんですよね。岡先生が企業にいらした経験から、情報だけ、デザインだけというような閉じた環境のなかだけでやっていたら、分野としてのインタラクシオンはできないというのを思っていたんだと思います。融合がないと開発ができない。私も、もともと企業にいたので、そういう意識は共通にあったと思うんですけど、岡先生がそれを授業のような形でできないかということで相談に来られたような。

岡教授(以下O):覚えてないです…。そうだったんですね(笑)その時にどう声をかけたかは覚えてないんですけど、一番初めは、情報の大学院の授業の中で、講義じゃなくて何か作らせようと思って試行錯誤する中で、やっぱりデザインの人とやってみたくて声をかけた、かも。

K:だい昔のことになりませうけどね。95年か96年からやってたかな。

O:もう十何年も前ですね。

K:岡先生も私も全く学校のルールを知らなかったからできたんじゃないかと思えますね。専攻をまたいで授業をやるのは常識的ではな

かったんですけど。その時は必要だよ、というそれだけの理由で進めたような気がします。

—当時は科学と芸術を融合させた授業はなかったんですか？

K:科学と芸術の融合を言い出したのはいつなんでしょうね。3代前の木村学長が言い出したことだと思うんですけど、インタラクシオンデザイン授業とどちらが先かわからないですね。でも、元々そういう授業は必要になってくると思ってましたね。

O:ただ、この授業で大切なのは形をつくるデザインではなくて…デザインシンキングとって、問題を見つけて解決していくという、工学教育では手薄な分野なんですよ。それで、人工知能

の授業のにデザインの人を呼んでやった方がいよねという話になったんです。

—工織生の強みや弱みはどういう所だと思われませんか

O:デザインとエンジニアリングの人が両方いるところですかね。個人の強みってわけじゃないんですけど。

K:あと、環境が良いですよ。静かだし。それでいて田舎じゃないし。そういう周りの環境が工織生が持つ強みじゃないかなって感じがしますけど。割と物事に対して偏見を持たずにスッといけるというところでは、変に知識がつかないというか、そういった素朴なところが京都にいながあるというのは、環境が与えてくれている特質かもしれないなと思います。強みにもなり弱みにもなりうるところですけど。

O:場所は良いですよ。あまりごちゃごちゃしていないので、良いところだな。

—今の工織をより良くできることは何だと思えますか？

K:この授業を始めてからずっと思ってるんですけど、大学に入ってきてからたった4年しか経ってないのに、西と東のキャンパスで相当考え方が違うんですよ。もう考えること、使っている言葉が違う。何か1つのタスクを与えたときに、アプローチが全然違う、それぞれの流儀みたいなものを身につけてきちゃってる。なので、会話が成立しない。そんなことが散見できるのは、なぜかなというところは非常にあって。

O:まあ、専門的というか、そういう授業してるし、そういう卒業研究してますしね(笑)

K:そうですね。だけど、学ぶ上だけじゃなくて生きていく上でも、どちらの側面も必要だと思うんです。学部の授業というのは専門性を高めようとするとしても偏ってしまう傾向が出てくる。だからこそ、一回シャッフルしてあげる機会が、大学院なんかでは特に必要になってくる。もちろん大学院でも専門性が高い研究をしなきゃいけないんですけど、1度全体感のある見方をできるようなトレーニングが必要だと思いますね。

O:この授業の中では専門分野による分担ができてしまうことが多くて、終盤、ソフトを書くのは情報の学生

になるし、こういうのを作りたいというのはデザイン側の学生の声が大きいです。時期によって負担が偏って軋轢が生じやすい。

K:グループでやるときに大事なものは、ターゲットやニーズを意識して問題を自分たちで設定することで、実際の生活でそれが必要かを提案しなくてはいけません。これはデザインの学生が長けているかということではなくて、専門性はあまりないんです。どう設定するかというのは、お互いが同じ立場で関わられるんじゃないかと思っています。

—次は理想の工織の形についてお聞きしたいのですが、こういう学生に育てられたらいいという理想像はありますか？

K:今で十分素晴らしい学生だと思ってますけどね(笑)皆さん学部生なので忙しいと思うんですけど、気持ちの上ではいつもなんだか焦っている感じで。何かに没頭できる環境ではないので、なんとか方法を考えたいなと思っているんですけどね。僕らの学生の頃は非常にシンプルな学生生活だったんだけど、今はワークショップとかいろんなメニューがあって全部咀嚼するのが大変だろうなと思います。それを全部提供してきたのも私たちなんですけどね(笑)

O:僕が思うのは、就職がゴールになっている学生が多い、というかほとんどですよ。就職のために学生生活を送っている人が多くて。それはやっぱりもったいないというか、可哀想というか。教員がやりたいことと学生がやりたいこと、教員の目的と学生の目的というのが合っていない。本当は僕らが働きかけて本来の持つべき目的を見つけてあげれば良いと思うんだけど、なかなかできていないというか。

K:どういう環境であるべきかというのを描いていくような作業をもっと素直にできるというかなと思うんですけど。

O:1年生等も含め、どういう風にしていきただとか議論できるというんですけど。ただ、議論するにしても情報とデザイン・建築では授業のやり方から結構違いますよね。

K:そうですね、例えばデザインでは、理論でもとにかく全員の先生が出て、顔を覚えて

もらおうとするんですよ。

O:情報では1年生向けの授業は高校の延長尾のような形式のものが多くて、もっと教員を近く感じてもらえる方がいいのかもしれないな(笑)ただ、そういう風にしたときに工学系の方で問題になるのは、時間が限られているなかで講義と演習をどう両立するか。やっぱり専門的な講義がないと生きていけないし。

K:デザインで大事なスキルって会得するのにとても時間かかるんですよ。デザイン・建築の場合は、線をまっすぐ引けないとかの時点で駄目じゃないですか。その練習をしないとイケないんですけど、そういうのって工学ではあまりないですよ。

O:それも重要な技術ですよ。

K:そうそう。体で身につけるとい

うか。O:情報の中はプログラミングを講義と演習でやりますけど、そういう技術です。

—最後に工織生へのメッセージをお願いします

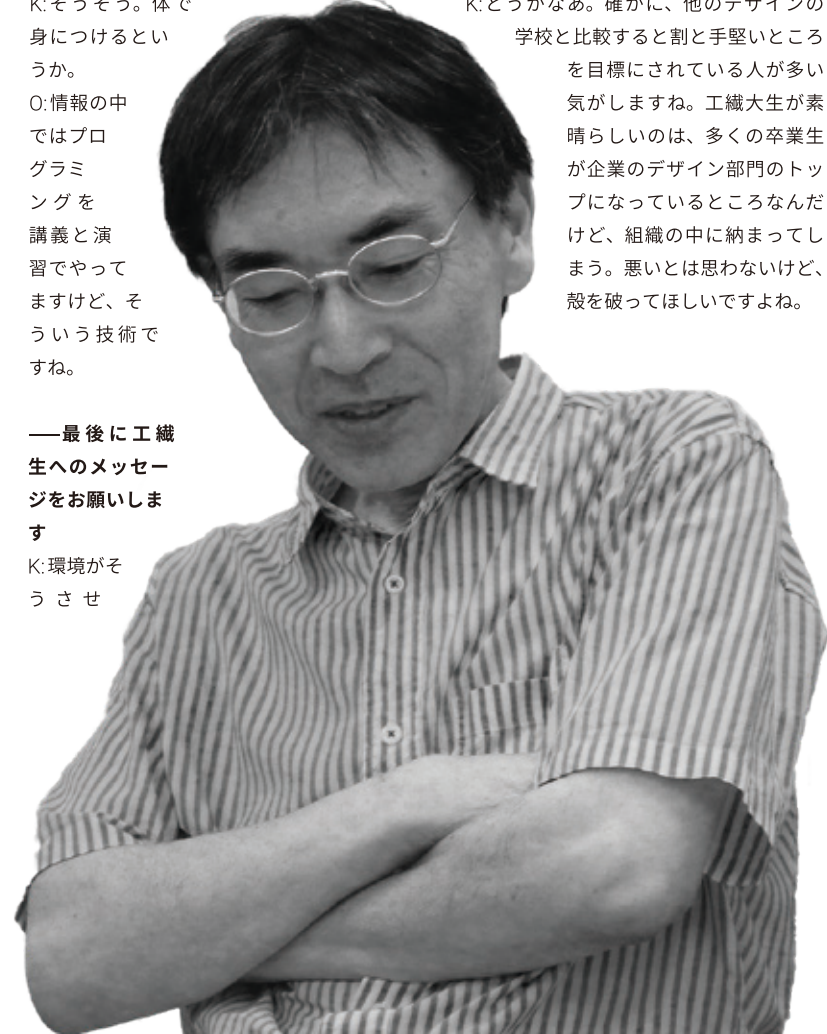
K:環境がそうさせ

るというか、もともとそういうキャラクターの人が多いのかわからないんですけど、すごく内向きになる環境がこの学校にはあるような気がするんですよ。それは集中して学習していくにはとてもいい特質じゃないかなとも思いつつ、せっかく京都にいますのでこの環境を意識してもらったと思います。この京都で学んだことを将来自分の記憶の原風景の一つにするというか、そういう視線を持ってもらえたらと思いますよ。

O:情報の学生を見ていてですけど、こじんまりしているというか、そんなに野望を持ってない気がします。なんか適当なところに就職したいとしか思っていないというか。それはそうじゃないだろと思います。デザインの学生はどうですか？

K:どうかな。確かに、他のデザインの

学校と比較すると割と手堅いところを目標にされている人が多い気がしますね。工織大生が素晴らしいのは、多くの卒業生が企業のデザイン部門のトップになっているところなんですけど、組織の中に納まってしま。悪いとは思わないけど、殻を破ってほしいですよ。



前田教授に聞く。

—科学と芸術の融合を目指す学風についてどう思いますか？

20年ほど前は、「科学と芸術の出会い」と言っていたと記憶しています。私も、その頃は出会うくらいなら可能だが、「融合」はしないと感じていました。私の研究対象にもなっているドレッシングを振ってできるエマルションのようなもので、混ぜたと思ったらすぐに分離するようなものでしょうか。科学と芸術では、使うのも左脳と右脳で違いますから。

しかし最近では考え方も変わってきました。私の方の科学の考え方が変わったということもあって、色々な自然の法則とか、摂理とか理論に「美」があるな、と。科学も芸術もどちらも創造という点では同じで、いい創造には共通して「美」があると思うようになってきました。さらに、最近本学が推進しようとしている「デザイン思考」は、化学と電子と機械や、生物と情報や、異なる科学を結びつけるのに欠かせない方法論になりつつあります。デザインというのはプロセスなんですね。異分野を結びつけていく、そういうプロセス思考にデザインのセンスがいるのです。



例えば僕らは有機化学とか無機化学の分子レベルでものづくりをしているのですが、そういう目に見えないものを製品・技術にしていくにはプロセスがいるんです。そのプロセスを考えていくやり方がデザインということ。「融合」を超えて新しいものを作り出す「止揚」と言ってもいいかもしれません。ということで、これからも「科学と芸術の〇〇」と変化していけばいいと思います。ちなみに、残念ながら私は絵心がなく左脳しか働きませんが。

—工織生についてどう思っていますか？

前のインタビューでもいいましたが、聡明かつ謙虚だと思います。社会に出て受け入れられて活躍しています。

—工織生がより良くなるためにはどうしたらいいと思いますか？

そうですね。もう少し羽目を外してもいいかなと思います。それは大学という枠を超えて、「社会」に批判的になるという意味です。いい意味で学生どうし徒党を組んでほしいですね。僕は大学時代には生協組織部というものに入っていたんですが、そこで、学部を超えて色々な人と意見を戦わせることができました。やっぱり考えが同じでは無いので、どういうやり方が良いか、色々なことを話し合いました。目的はだいたい一致するけどやり方で一致しなかったり、時には目的さえ合わなかったこともありましたね。考えが違うから好きな人同士で好きなことだけやりましょうじゃなくて、やっぱりある大きな目的で賛同できるならその範囲で何ができるか、そういう意味での徒党です。昔はクラス討論という場があったんですが、今はそういう訓練をする場が無いですね。でも、意見の違う人にもなんとかして話しかける努力が必要なんです。めんどくさいですけどね（笑）これは工織生に関わらず、大学生全体に言えることかもしれません。

—あなたの思う理想の工織はどのようなものですか？

京都のネームバリューを生かしながら、他に例のないユニークな大学になること。もう一つ文系の学部があればもっと幅が広がるのですが。空想の話ですね。

—工織がより良くなるためにできることはなんだと思いますか？

今は国のあり方を変えないと、工織だけがよくなることはないのだから、教員、学生ともに、色々な意味で勇気をもって「批判的」になること。学部長としては、学内のコミュニケーションを活性化する仲立ちをしたいと思っています。科学と芸術の融合のレベルも質もまた変わると思います。僕も最初は混じりもしないものだと思っていたのですが、その考えが変わってきていますから。独立を保ちつつ融合するというのは難しいですが、期待しています。

Profile 前田耕治（まえだこうじ）
物質分析学研究室 教授
工芸科学部長

—工織の強み・弱み

デザ建・2回：なんだかんだキャンパスが狭いと全課程と絡めるというか。他の総合大学とかだと規模がでかすぎて無理じゃないですか。どういうところで苦しんでいるのかくらいは分かると思います。

デザ経・2回：私デザイン系のことするか工学系のことするかめっちゃ悩んでたところに両方できるって言われてこの大学入ったんですね。でもはじめは全然興味なかった経営のこと、株を見たりとか、プロジェクトの中でやっていくうちにそういうのも大事だなと思ってきて。知る幅が増えることですかね。

デザ建・1回：工織は単科大だけやってる分野がいろいろあって、デザインも生物も電子もやってるし、みたいな。さっきの狭いっていうのとも関わってくるんですけど、色々やっている割には狭いから、単科大の割にはいろんな分野の考えがあるのが強みなのかなと。

—科学と芸術の融合という学風

デザ建・2回：高校生目線で見たら、パンフレットとかで工織は科学と芸術を中心にして書いてあったから実際に入って「あれ？関わりなくね。」って思いました。分離されてるというか。

—科学と芸術の融合という学風

デザ経・2回：融合するには、工学もデザインも別々に両方学べばいいと思うんですよ。そうしたら頭の中で勝手に融合する。でもそうすると時間が足りなくて、他の大学に比べて各分野の専門性が足りなくなっちゃうんじゃないかな。

—工織の強み・弱み

デザ建・1回：建築の人たちは建築を極めようとしているのはいいんですけど、そっちにしか目を向けていないことがあってそれはもったいないなと思います。逆に機械の子とかがデザインは関係ないからとか言ってるのももったいないなと思います。授業とか難しいなら、個人が興味を持つところから始めてもいいんじゃないかなと思いますね。

広報局員に聞く。

—科学と芸術の融合という学風

電子・2回：デザイン側はモーター作ったりしてんだったら、科学と芸術はそれなりに融合してるような。でも僕なんかは今勉強してることだったら別に工織大じゃなくてもいいわけなんですよ。まあでも、文句は言いつつも電子システムとデザインが融合している姿は見えない。機械・3回：実際に自分の学んでることがもの、製品に繋がるのが見えたら、もっとモチベーションにもなると思うんですよ。でも今の授業ではいつまでたっても見えない。工織ならできると思うのにな。

—科学と芸術の融合という学風

デザ建・1回：今年からデザ建とデザ経が併合したので実感する機会が多いですね。一回生からモーター作ったりしなくちゃいけない。融合しようとしてるのかなっていうのは実感します。まだ面白いなっていうぐらいです。それが生きてくるかの想像はつかない。

—理想の工織

機械・3回：どっか一つの学年で、他の学部と物を作るみたいな授業があればいいよね。デザ建・1回：院とかにはあるみたいですが。でも、分担できてしまうから、結局は分担して作ったものを持ち寄ってけんかしながら会議するみたいになっちゃうって聞きました。考え方が固まっちゃうから。

機械・3回：やっぱり一回生とかからやった方がいいのかもしれないな。

あなたの理想の工織は？

WYL

COOP with Your Life

組合員の皆さんに、工織大生協のちょっと耳寄りな情報をお届けします

7月はオルタスもショップも九州沖縄フェア!!

暑い夏を!試験前シーズンを!院試を乗り切ろう!

- オルタスは7月2日(月)~14日(土)
年に一度の大人気メニュー「とり天」も2週目に登場します!
九州と沖縄のうまいもん、この機会に召し上がれ!!
- ショップは7月2日(月)~28日(土)
こちらも毎年大人気の「紅いもタルト」「雪塩ちんすこう」に加え、
今年は九州の人気商品「めんべい」なども加えて展開します!



KIT SHOP アイスコーヒーはじめました

夏はアイスコーヒーで一息

- 今春から導入されたコーヒーマシンにアイスコーヒーが登場!
- 飲みやすく人気の「ザ・ブレンド」
 - キリッとした苦味がアイスにピッタリ「イタリアン」
- の2種類の豆が選べます。 ※Lサイズのみ。1杯180円



総代会報告書

総代会は生協の最高の意思決定機関で、1年間の運営の方針を決める重要な会議です。株式会社の株主総会にあたります。

生協という組織は、そこに投資し

た組合員の皆さんのものですから、組合員の意見が反映された運営がなされるべきです。そこで、組合員の中から代表が集まり、生協に対して意見を伝える場が総代会です。

総代会で出た意見

オルタスのメニューを改善して欲しい!

黄色野菜のメニューを増やした方が良いのではないか、という意見が出ました。また、魚料理に関しては、揚げ物が多く焼き魚の提供が少ないため、もっと焼き魚を増やして欲しいという要望が出ました。特に下宿生にとっては、魚料理は調理が面倒で怠りがち。オルタスで補完できると良いですね。



買い物カゴを活用しよう!

KIT SHOPの食品フロアに買い物カゴが設置されているをご存知ですか? 複数の商品を買う時でも、いくつかのカゴを使わずに手で掴んでレジに並んでしまいがちですね。両手が塞がったままで支払いの用意ができず、精算に手こずった方もいらっしゃると思います。積極的にカゴを活用し、精算をスムーズにしよう、という意見が出ました。

Honya Club で好きな書籍を取り寄せる!

KIT SHOPの書籍コーナーに無い本でも、Honya Clubというサービスで注文すれば、生協に取り寄せることができます。しかも、KIT SHOPで買う時と同じく価格10%OFFの特典付きです。認知度が低いように思われるので、もっと組合員に広めていこう、という声があがりました。



▲総代会当日の様子。



お菓子試食会開催!

総代会と並行して、KIT SHOPの100円菓子を対象とした試食会が開かれました! 会場には、100円菓子が勢ぞろい。投票で、どのお菓子が一番美味しいかを決めました。また、普通の牛乳と、SHOPで販売している大山乳業のせいぎょう牛乳の飲み比べも行われました。

結果発表

- 1位 しゅチョコスナック
- 2位 牛乳かりんとろ / サツマイモバー
- 3位 歌舞伎揚げ / カリカリト焼きとろもち



▲試食会で並べられたお菓子の数々。



——工織で、やりたいことがある。

デザイン経営学課程2回生

大川 在浩

Okawa Arihiro

——どうして工織に入社されたのですか？

理系に進んだけど純粋な理系ではなく、経済学みたいなのをしたいというのがあったんです。当時前期は神大経済を受けていたんですけど、後期はまだ決めてませんでした。京都工芸繊維にはもともと興味があったのと、デザイン経営工学の考えはめっちゃめっちゃこれからの世界で面白いかなと思ったので後期はここを受けることにしたんです。前期は落ちてしまったんですが後期は受かったから、まあ浪人するのいやだし、面白い学科だし、もともと絵を描くの好きだったので、デザイン行くのもいいかなと思って来ました。

——最初の経営学からデザイン志望に変わったわけは、何かありますか？

経営学とか経済学って頑張ったら自分で勉強できるんです。でもデザインって感性の問題で、それを本に書いてあるのもあるんですけど、自分はそれは人から教えてもらった方がいいなと思ったのと、自分の行きたい研究室がマネジメントをしながらデザインもするという新しい選択をしているので、デザイン志望がいいかなと思ったんです。まだ最終的なコース選択は来年なんですけど、今はデザインで。デザインマネジメントと部活両方に取り組んでるので、常に睡眠不足です。

——アメフトで活躍されているとのことですが、ポジションを教えてください

オフェンスはオフェンスライン(OL)というポジションで、ディフェンスは、ラインバッカー(LB)というポジションです。

OLは簡単に言うと前線でまず一番最初に敵と当たって力と力の勝負をするポジションで、LBはディフェンスの要という感じです。LBが機能していないとパスもランも、どっちもオフェンスに通されてしまうので、頑張らないといけないんです。両方ともやって楽しいポジションです。

——次にアメフトについて意識されていることを教えてください

中一からアメフトを始めて、大学二回で8年目。この大学では自分の持っていた経験とかを活かしていこうと思って頑張ってますね。どうしても経験が必要なんで...アメフトはサッカーみたいに流しプレーとかじゃなくて、ひとつひとつのプレーが区切られて試合が進みますけど、そのひとつひとつのプレーを、お互いのチーム同士別々のアサインメント(各ポジションに割り振られた役割)を中心に進めて行くので、アサインメントをどれだけ理解しているかによって相手をどう攻略するかという頭脳戦なんです。

あと他に意識しているといえば、スキルももちろん重要で、手足一本の出し方によってプレーすべてが変わります。タックルなら、手の向きとか足の角度とかを、結構考えながら当たってるんですよね。

自分たちは工織で浮いているような体育会系のイメージですけど、アメフトは勉強をしっかりしてないといけないスポーツなんです。

例えば、対戦相手のビデオを研究して、このポジションのこの選手はこういう癖がある



▶大川さん(写真右)のアメフトの試合の様子。



からここを攻めていこうとか、試合1つ1つにゲームプランを考えて、その練習をひたすらする。試合が始まる前から始まっている、それが面白い所だともっと知られてほしいです。

——試合以外でアメフトでこれからこうしていきたいな、というのがありますか？

むっちゃ効率主義なんで、もっと練習を効率化したいですね。ただ同じ練習を続けるんじゃなくてメリハリをつけたりとか。あとは、褒め方ですね。アホみたいに褒めまくるんじゃなくて、ホンマにできて、しっかりええやんっていう時だけ言うとか。話は変わりますが、ある課題を改善できたっていうのは、自分のときだけでなく他人の時でも嬉しいですよ。

——アメフトから話が移ります。デザインでの具体的な志望を教えてください

ワークプレイスデザインです。今までオフィスは何の作業でも対応できるように、ただの無機質な白い箱でしかなかった。もっと働く環境をデザインで豊かにしようというのがワークプレイスデザインです。今のデザイン建築学課程の課程長の仲先生の話聞いて、俺はこれをやりたいと思うようになりました。

——バイトはユニクロだそうですね。

接客の言葉使いとか、その辺は将来の自分にはいいかなと思って。

——接客もデザインにとっては重要ですか？

そうですね、先生の受け売りになってしまいますが、デザイナーっていうのはアーティストじゃないんです。アーティストというのはただ造形美をひたすら追求するものですけど、デザイナーは、まず自分で綺麗なしっかりとしたものを作ってターゲットをしっかりと選定しそれを消費者や取引先の会社とかにプレゼンし、ちゃんとこういう商品ですよっていうのを伝え、世の中に出すまでが仕事なんです。そしてそれに共鳴したので。だからユニクロであんまり知らない他人としゃべったりとかするのは、最終的に自分がデザイナーになったときに、自分の商品とか作ったものをしっかりPRできるようにするためにやっています。

——アメフトとの両立によって、良い相互作用が生まれているという感覚がありますか？

実はアメフトとデザインの2つの間に繋がりはあんまりないですよ。デザインでイラストした時に、アメフトでバンッ!と当たってくると、自分は体動かすの好きなんでストレス解消になるんですが、それくらいですかね。アメフトは結構時間的拘束力が強いんで、時間を要するデザインとは相容れないかもしれないですけど、そこ上手くできたら将来何事も結構うまく行けるやろうと思ってるんで、敢えてやっています。

——最後に恒例の質問です。彼女いますか？

いません。作らなきゃとは思んですけどね(笑)



座右の銘

自分の生きる人生を愛せ。自分の愛する人生を生きろ。

Love the life you live. Live the life. Bob Marley

-Profile-

大川 在浩 / おおかわ ありひろ
デザイン経営学課程2回生
部活 アメフト部

今月の
ヒロイン

中野 安優実

今月のヒロインは、
女子ラクロス部のトレーナーに
Raccoon のギターと
多彩に活動するこの人！

プロフィール

中野 安優実・なかの あゆみ
機械工学課程・2年生
女子ラクロス部と Raccoon を兼部
好きな食べ物・シュークリーム
好きな映画・ジュラシックワールド
ピリギャル

—女子ラクロス部のトレーナーをしようと思ったきっかけは何ですか？

まず女ラクに選手しかなくて、私ともう一人ではじめて、マネージャーとトレーナーを分担しようってなりました。マネージャーは選手の飲み物を用意したり、時間を計ったりをするのに対して、トレーナーは主に筋トレや準備体操のメニューを考えます。私はトレーナーをしたいなと思ってトレーナーになりました。部活終わりに体を伸ばすメニューを考えたり、怪我人が出た時には、応急処置や、病院に連れて行ったりします。アップとクールダウンのメニューは、どうしたらより効果があるかとか、筋トレメニューもどうしたら走るのが速くなるかとか、選手がスポーツしやすくなるように考えながらやっています。

—音楽サークルRaccoonでも固定バンドで活動されてるんですね。音楽を始めた理由や固定バンドを組んだきっかけなどについて教えてください。

固定バンドは珍しいです。メンバーはギター、ギターボーカル、ベース、ドラムの4人です。私はギターをやって、たまにキーボードもやります。中学の時にバンドを聴くことにハマりだして、仲のいい子た



ちと軽音を始めました。大学に入ってもやりたいなって思ってんですけど、女ラクにも入ったし、バイトもやりたいし、そんな時間とれるかなって。でもRaccoonならできそうかなと思って入りました。ただ、緩すぎるようにはしたくなくて。技術面もしっかりやりたいので、固定バンドを組みたいと思ってました。それで、Raccoonで結構仲良くなった子たちが経験者で、「あ、いいな」と思ったんで、組みました。

—バンド名はなんですか？どんな曲を演奏していますか？

ハエ網(仮)です。ハエ網って汚いので、変えるかもしれないので(仮)がついてます。基本邦楽のロックなんですけど、皆がやりたい曲をやっています。一緒にやってるギターボーカルの子が結構バンド好きで、Raccoonは1つのバンドのコピーバンドが多いんですけど、私たちは一回のライブでいろんな曲、いろんなバンドの本当にやりたいと思った曲をやります。最近では04 Limited Sazabysっていうバンドが前から好きだったんですけど、やりたいっていう気持ちが起きて、ずっとコピーしてて。次のライブでは椎名林檎をやるって話になって、結構路線が変わってますね。椎名林檎はめっちゃエモいです。激エモですね。

—練習やライブについて教えてください。

ギターは一応毎日触ってます。暇なときは、めちゃめちゃ練習するし、そうでもないときは10分、20分とか...まちまちですね。合わせの練習は、ライブ前になったら週1、2回2時間ずつくらいやるけど、今は何もないので全然入ってないです。ライブは、Raccoonだけのライブの他に、他大学と合同のものとか、先輩が企画するライブにもできるだけ全部出させてもらうようにしています。2回生の女子だけでやってる固定バンドが他になくて、女の子だからかもしれないんですけど、ちやほやされるんですよ。ライブでも、みんなめっちゃのってくれて、観客がウワワってなって楽しいですね。

—女ラクとRaccoonの両立は大変ではないですか？

まあ、確かに。女ラクの練習は週3なんですけど、リーグ戦のシーズンになる夏は、すごいめちゃめちゃ駆り出されちゃうんで、Raccoonに行けなくなって...結構そういうのが、やめようかなって思うきっかけになるんですけど、プレイヤーのみんなも合宿の日程にRaccoonのライブが被らないように調整してくれたりとかするんで、今はめっちゃ楽しく両立できてます。





写真研究部

部活動紹介 第十九回

今号の部活動紹介は
写真研究部。
部長である齋藤健太さんに、
写真への思いを語ってもらう。

—写真研究部での活動は？

今年度はひと月かひと半月に1回ぐらいを目標に活動しようと思っています。主な活動は、撮影会として学外に撮影に行くことと年に3回の展示会で、プラザKIT・松ヶ崎祭で行う学内のものと、京都府大・京都医科大と合同で場所を借りて行う学外のものがあります。活動の目標はこの展示会への出展です。外部の写真コンクールとかは個人で好きにやってもらって感じで、活動自体は楽しむことを主にしています。

—部員はみんな一眼レフ？

そういうわけではなく、カメラは持っていないけど写真が好きっていうので入る人もいて、スマホで撮影する人もいます。けれど、いわゆるデジカメで撮っている人はなくて、スマホか一眼レフかに二分されていますね。最近一眼レフが人気ですから。初心者の人も全然いて、スマホで撮っていたけど活動していくうちに欲しくなって一眼レフを買う人もいますね。買わないままの人でも写真って楽しいなって思える雰囲気のできたらいいなって思っています。



「シャッターチャンス」
撮影：新1回生

—写真を撮るときに意識していることは？

デジタルカメラってすぐ撮れるところが利点だと思っていて、面白いものを見つけたら、すぐに撮るっていう感じで直感を重視しています。もちろん、写真のテーマによってモードとかは変えますけど。

—月1回の撮影会では何をしていますか？

観光地に行って撮影をして見せ合って「この写真いいね」とか言い合いながら和気あいあいと巡って撮影してますね。個々で撮影に行ってるのでその場でアドバイスしたり、人物写真の被写体になってもらったりするのがいいところかなと思います。

—一眼レフの良さとは？

1つはレンズを変えられるところですかね。レンズそれぞれが持つ個性を使い分けて撮るんですよ。もちろん、なんでも撮れるレンズもあるんですけど、安いレンズとかだとクセも強いんですよ。けど、そのクセが好きだったりします。もう1つは、一眼レフってレンズを変えられるだけじゃなくって色んなボタンでシャッタースピードなどの設定を変えたりできて、そういうメカらしさに工学男子の心をくすぐられます。

—カメラへのこだわりは？

本当にこだわっている人はカメラごとのクセなどで複数台持ったりもするんですけど、1台でも色々撮れるので僕はあんまりないですね。大手二大メーカーとしてCanonとNikonが挙がるんですけど、Canonのカメラはかなり色鮮やかで生き生きしたものが撮れるのでポートレート向きで、Nikonはナチュラルなものが撮れるので風景に向いているっていうのが大きな違いとしてあって。僕はCanonの写りが好きなので、強いて言うならそこがこだわりですかね。



撮影：写真研究部 部長

▲5月20日の新入生歓迎撮影会の様子



撮影：写真研究部 部長

「ヌレギヌ」



「西の御所の傍」

撮影：新1回生

—写真を撮ることの面白さは？

芸術っていうと絵画とか音楽とか色々あるけど、いざ始めようとする結構面倒だなんて感じていて。カメラなら、手軽なんですけどやっぱり奥深さもあって楽しいっていうのがあって、そういうところが面白さかなと思います。

<写真研究部>

部員：学部1回生 18人
2回生 2人
3回生 12人
修士1回生 1人

(2018年6月12日現在)

活動内容：月に1回の撮影会
年に3回の展示会

【工織生に一言】

工織って「技術と芸術の融合」を掲げているじゃないですか。カメラはまさにそれを形にしていると思うんですよ。工織生にぴったりだと思うので、ぜひカメラで遊みましょう！



▲写真研究部 部長の齋藤健太さん

2016年に「学生と教員の共同プロジェクト」に採択された『環境・エネルギー教育普及プロジェクト“Kyo Tech Lab.”』をご存じだろうか。現在“TeChLover”と名前を変え、活動を続けている彼らにお話を伺った。

文：編集部

KIT wiz * TeChLover

INNOVATION

科学教育普及の拠点

Interview * Kenichiro Nomoto
Haruka Nishida

TeChLover

TeChLover (旧 Kyo Tech Lab) は、京都工芸繊維大学の「学生と教員の共同プロジェクト」に採択されて活動している環境・エネルギー教育普及プロジェクトです。私たちのモットーは「教育にも、研究にも、壁は要らない!」です。大学で学んだ科学・技術をわかりやすく高校生や小中学生に伝えること、そしてより深く科学・技術に触れる機会を作ることを目的として学内にとどまらず多くの人たちとふれあいながら活動しています。

この団体を立ち上げたきっかけは、私の高校時代の同級生が行っていた教育研究に関わったことです。5年間ほど、彼の研究のためのものづくり教室に携わり、そこで高校生が、科学実験の楽しさ、小学生にものを教える難しさを実感しながら活動し、どんどん成長していくのを見ました。そこで、大学生もともに活動すれば、お互いにさらに成長でき、科学実験の幅も広がり、よりよい団体ができるのではないかと考え、この団体を立ちあげたのです。大学のプロジェクト活動として正式に活動するようになったのは平成28年度ですが、その前からずっと活動しており、最初は小中学生に対してのものづくり教室を開き、科学や技術に関する教材を使い、楽しく学んでもらう団体でした。現在は、高校と連携し、科学研究やイベント出展を行っています。主に、「青少年のための科学の祭典」や「京都のものづくりフェア」など、京都と滋賀をメインに各都道府県で行われているさまざまなイベントに出展する教材を作るため

に、京都工芸繊維大学の学生がサポートに入り、高校生と共に教材の研究、開発をしています。イベントでは、中学生ぐらいの年齢の子供が科学館や体育館のようなところに集まり、科学に関するものづくりをします。過去には、オリジナル石けんや光ファイバーで作った「光るツリー」を作りました。

そして平成28年度の活動を通して、高校生が人間として大きく成長していることが認められ、私たちの団体がその成長に貢献していることが評価され、2つの賞を受賞しました。一つは学生ボランティア団体表彰です。もう一つは、京都工芸繊維大学学生表彰です。これは、工繊大で優秀な成績者、ものづくりなどで地域貢献をした人や団体が大会で高い成績を収めたことで大学から表彰されます。今後さらに高校や企業、地方イベントとの連携を広げ、科学・ものづくり教室への出展を行いながら、高校生への研究指導、資格取得指導といった活動も行っていく予定です。



野本健一郎 | 京都工芸繊維大学 TeChLover リーダー



Fig.1



Fig.2

高校生との共同研究活動

Fig.1 / 高校生とイベントで使う溶液を調合している様子
Fig.2 / 自作アルコールランプ

Explanation by Kenichiro Nomoto

—TeChLoverの活動の1つとして京都市立京都工芸院高等学校の高校生と連携し、サイエンスの部活動支援や科学技術基礎の授業に参加しています。そして主な活動は、研究活動とイベント出展です。各地で行われている小中学生対象の科学イベントに出展するために教材をつくり、当日は小中学生に楽しく科学に触れてもらえるよう、高校生とともに企画しています。高校生からは自分たちがやりたい研究ができた、卒業後にこの体験を進学や就職活動に生かされた、といった一緒に活動して良かったという声が聞かれます。また、平成30年度の2月から和歌山工業高等専門学校生物応用化学科 網島研究室と共同研究をすることになりました。網島研究室ではエネルギーに関する研究を多く行っており、協力してものづくり教室や研究活動を行います。このようにTeChLoverは様々な連携先との輪を広げながら今後も活動していきます。

Comment from the editor

—高校生時代に、本格的に自分のやりたい研究ができる機会や、小中学生や大学生、大学の教授など様々な人と関わる機会に恵まれる人はそう多くない。この活動は彼ら高校生にとっても、また大学生側にとっても貴重な経験になっている。



Fig.3

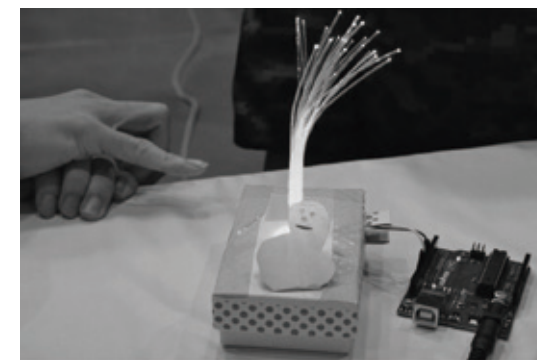


Fig.4

小中学生向けのイベントへの出展

Fig.3 / 灯籠を作ろう
Fig.4 / 光ファイバーツリーを作ろう

Explanation by Kenichiro Nomoto

—小中学生向けイベントへの出展を通して、子どもたちが一生懸命手を動かして作り、わかりやすく科学の原理を学び、できたものを家に持って帰って使えるようなものとしての教材を提供しています。直近の活動では「とうろうをつくろう」を出展しました。子どもたちは大学生や高校生と一緒にとうろうを組み立て、紙をハートや星形に切り抜くなどして、オリジナリティ溢れるとうろうを完成させていました。そこで行った炎色反応の実演は、子どもたちも燃える試薬によって炎の色が違うということを知りました。また、別のイベントでは光ファイバーでツリーをつかったり、手作りアルコールランプと空き缶を用いて綿菓子機を作ったりするなど子どもたちに楽しんでもらえるような教材を用意しています。毎回多くの小中学生に参加していただき、科学や工作の楽しさを知ってもらえれば嬉しいです。

Comment from the editor

—学校の授業であれば小中学生では分からないこと、知ることができないことも、このようなものづくりを通してならば楽しく科学に触れながら、分かりやすく理解できる。高校生、大学生もどうすれば分かりやすいかを考えて製作することで理解が深まる。この活動には素晴らしい相互作用があると感じた。



[解説]
なんと我等が虹の旗に京都府から記事作成の依頼が舞い込みました。新しい下宿の在り方を紹介します。読者からも何か宣伝の依頼があれば、我々、頑張っちゃうかもしれません。

高齢者とのルームシェアを、想像したことはありますか？



京都ソリデール

は京都府が推進する、学生が低家賃で空き部屋を持つ高齢者と同居する斬新な下宿の在り方。1人暮らしでは絶対に味わえない、人の温かさ溢れた暮らし。今回我々は、若者と高齢者を繋げる活動をされている工織生や、実際に高齢者と住んでいる工織生のソリデール体験者に話を伺い、泊まり込み取材をさせていただきました。



デザイン・建築学課程 4回生

和田ふき

学生と高齢者のマッチング等を行っている

— 具体的にどのような活動をしていますか？

京都には高齢者団体がたくさんあって、その一つの団体がソリデールに興味を持って高齢者のチームを作ってくれているんですよ。その人達と、高齢者と若者が一緒に暮らす時にどんな違和感が出てくるか、住む前にどういった交流会をしたら違和感なく住めるようになるか話し合いをしたり、PRしに行ったりしてますね。あとはソリデールに参加してみたい学生がいたらその子と話して、どのような特性があるかとか、どのような暮らしのスタイルかを具体的にヒアリングして、合いそうな高齢者さんとマッチングしています。

— 高齢者のすごいと思うところ

歳をとったときの考えの変化や、学生では経験が浅い、具体的な人との関わり方をよく話してくれることです。高齢者が会話に学生を引き入れるやり方の知識はすごくありがたいなと思います。人生経験を少しつまませてもらうみたい。多分一緒に住んでる子だと生活の工夫をすごく貰ってるんだろうなと思います。

— ソリデールで抱えている課題

協力してくれる学生を募集しています。学生が存在自体多分知らないし、知っても企画をしたい子があまりなくて、住みたい子の方が多いからなあ。あと、意外と高齢者さんが手を挙げてこないことですね。一人の方が気が楽という気持ちも分かります。だからどっちの母数も少なくてマッチングに結構時間がかかったり、学生に合う高齢者がいなかったりします。もうちょっと母数があれば活動が活発になるかなと思いますね。そのため必要なPRも難しく、TwitterやFacebookのタイムライン

では社会的な活動の情報は存在感が薄いので、地道にやっていくしかないかなと思っています。

— ソリデールの目標

ソリデールは「住むこと」を大きく掲げているんですけど、根本的には住むことじゃなくて、高齢者と一緒に何か共同作業することが大事なのかなと思っています。ソリデールって元々連帯って意味だから、一緒に住まなくても、共同作業で何かを一緒に生み出す行為が普通になればもっとおもしろくなるんじゃないかなと思います。

— おすすめできるポイント

まず、常に家に人がいて話せる環境が実家じゃないところで実現できることです。それが苦手な人もいると思うんですけど、好きな人にとってはすごく良いと思います。また、以前僕が実家暮らしから一人暮らしを始める時、料理とかが全然できない状態でした。だからお世話してくれたり料理を教えてくださいたりするような人がいる空間で、実家からソリデール、そして一人暮らしという自立の流れを体験してみてよかったなと思います。あと、僕にとって一番大きいのは水野さんと専門と一緒に、暮らしの事から

— 実際の生活で苦労はありますか？

実際にXキャンで共同生活をしてるから、そういう部分は気にしないですね。もし他人が気にするとしたら、洗濯物が自分のタイミングで回せないことですかね。実家が毎日回す家だったんですけど、今の家は三日に一度回すか回さないくらいです。他にも、生活リズムが全然違う中で、その家のリズムに僕が入るわけですよね。例えばご飯のタイミングとか、そういう部分はソリデールだとの家も学生側にある程度理解がないといけませんね。誰かの家に一緒に住むって行為から生まれる現象だと思うけど、相手の生活のリズムに溶け込んでいくことなので。今お風呂入りたいたいとかご飯食べたいという感じを出しすぎると上手くいかないとは思ったりします。あとは水野さんの話をいつ切っちゃって(笑)じゃあ僕学校行ってくるねっていつ言えるかを図らないといけなかったりしますね(笑)

— もう一つの実家という感覚ですか？

そうですね。祖父母の家でもないし、実家でもないし、いい意味で気を使う場面はあります。例えばリビングでダラーンとかはやっぱりなくて、実家とはまた違う、でも緊張しているわけではなくて、気を張りながらリラックスしてできる場所ですね。建築の人から聞いた話でいうと、サードプレイスみたいな言葉でまと

専門的なアドバイスまで聞けるところです。家で課題の講評もしてもらえます。日常が、バイト、課題、ソリデールの三本柱というよりバイト、課題の中にソリデールが少し入っているみたいなイメージです。日常をバラバラの3要素が占めていないところが、専門性が近くて良いところですね。



められたら面白いなあと思ったりします。息詰まりはないですね。自分の部屋に入れば自分の空間があるし、リビングに出れば一緒に生活できるし、良いバランスが保たれていると思います。

— — — — — 岡本さんのソリデール先（水野さん宅）にお邪魔しました — — — — —

岡本さんと水野さんの間に1年半の生活で確かな信頼関係が築かれていることが感じられた。相性ばっちりのマッチングが成立すれば有意義なソリデール生活になることは間違いないだろう。



局員のつぶやき

初対面にも関わらず水野さんは私達を暖かく迎えて下さり、贅沢な夜を過ごした。一人暮らしを始めてから2ヶ月になるが、初めての場所にも関わらずまるで実家へ帰ったような不思議な気分になった。ソリデールを考えている方はもちろん、一人暮らしに寂しさを感じている方もぜひ、一度はこの穏やかな生活を体験してほしい。

局員が火の起こし方を教えてもらっている
近所の方々と白課のラジオ体操

住むも企画も！ソリデール活動に興味がある方は下記メールアドレスにご連絡ください
info@aai-b.jp (応用芸術研究所)

今日の パズル

お題
漢字ナンクロ

[概要]
連載3回目のパズルページによるこそ！
今回はクロスワードの亜種、ナンバークロス、通称ナンクロ。
同じ数字のマスには同じ言葉が入ります。
語彙力をフル活用して挑もう！

19	維	18	8		16	橋	駅	7	13
11		科		2	17		14	10	5
	9	1	事		1	12		機	9
11	10		4	理	2		9	9	九番
胞		9		18		2		転	5
2	3	3	活		6	8	着		1
	4		15	名詞		4	質	18	2
14	2	校		6		17	市		1
16		13	車		準		12	数	群
1	5		18	藤	7	9		2	科
2		近	12		6		6	者	5

肖像権の関係で掲載できません。

漢字対応表

1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15			

解答欄

16	17	18	19
A	B	C	D

前回の答えは
ここで確認！ →→



CLOSE-UP クローズアップ読者

読者の皆さんの投稿によって
成り立つこのコーナー。
挟み込まれているアンケート用紙に
書き込み、オルタス内課金機横の
回収BOXまで投函ください。

虹旗大喜利バトル

Q1. 写真で一言。



「元カノやん!!!」

P.N. nanoさん

▲こういう子がタイプなのかな〜

ミスター・ポポ

P.N. アカハライモリのよしおさん

▲精神と時の部屋

Q2. 3Dプリンターでつくってみたいものは？

もんじゃ焼き

P.N. HDおまるさん

▲どんなもんじゃ

3D プリンター

▲永久機関ここに爆誕(?)

P.N. バン津玄師さん

▲人生楽しそうですね

希望で満ちた明日

P.N. さろんばすさん

▲欲しかったものはここにあったんだ...

Q3. 今年の夏休みの抱負は？

**セミの抜け殻を
100個集める**

P.N. HDおまるさん

▲漢方にするんですね

**いっぱい実験して
データをたくさん
集める♡**

P.N. ペンさん

▲余ったらちょーだい♡

流しソーメンする!!!

P.N. 29884さん

▲まず竹を育てるところから

松崎むげる越え

P.N. バン津玄師さん

▲夏休みで足りませんか？

読者の呆れ

クロスワードの答えがあわない...

▲ツツヤスミであってますよ♡

従業員入口から来店されるお客様

▲皿洗い希望かな？

毎号異なる読者の意見を聞いていきます!今号は呆れ。
あなたが思わず思考放棄してしまったことはなんですか？

**友達におつり返そうとしたら
11円しかなかった**

P.N. nanoさん

▲釣りはいらねえぜ

**高校時代陰キャだった奴が
大学で超陽キャになっていた**

P.N. のすけさん

▲電子をたくさん失ったんでしよう

教えて! 広報局!

今回も多くのアンケートをいただきありがとうございました!
教えて! 広報局! では、本当に気になる悩みから特に意味のない質問まで
幅広く募集しています。アンケートから気軽に質問できるのでよろしくな!



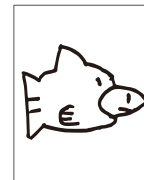
P.N. アカハライモリのよしお

Q. イモリの前足の本数

A. 会議で話し合った結果、2本ということになりました



局長 ZAWA



P.N. さかなをたべるさかなさん

Q. 進捗がありません 助けて!

A. 寝て起きたら妖精さんが進捗を生んでくれてますよ!!



局長 うーちゃん



P.N. 匿名希望さん

Q. 高校時代の生活リズムってゆるすれば戻ってきますか?

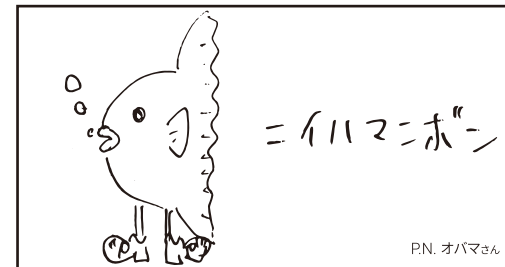
A. 久しぶりは制服の袖を通してみては



局長 ばろかん

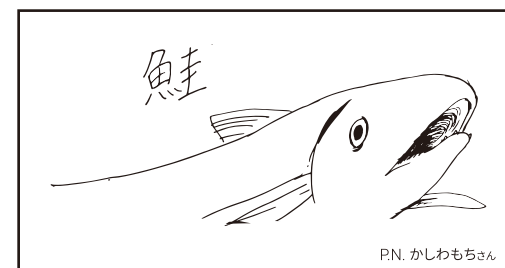
Monthly Picture

読者の皆様からイラストや写真を募集するコーナーです! その月ならではの写
真や、あなたの渾身のイラストなどなんでもOK! イラスト、写真は
LINE, Twitterでも募集しています。どしどし送ってきてください!



P.N. オバマさん

▲新しいゆるキャラですか?



P.N. かしわもちさん

▲スジのニオイがする...



あなたとつくる虹の旗

虹の旗では、読者の皆様からの投稿や取材の依頼、その他要望を随時募集し
ています。あなたの声をお聞かせください。

アンケート大募集中!

より良いものをつくる上で、読者の皆さんの声は必要不可欠です! アン
ケートにご協力ください! アンケートを投函してくれた方の中から抽選で
500円分の生協カードチャージ券をプレゼント中! 投函はオルタスへ!

今回の当選者様

16121018

17124005

17131046

18123014

18123053

今回のプリペイドチャージ券当選者は
左に挙げた5名様です。おめでとうご
ざいます! 当選された方は、組合証・
学生証・この虹の旗の3つを持って、
KIT HOUSE 2階の生協カウンターまで
お越しください。夏休みに入ると学校
に来る機会も減ると思うのでお早めに!
今後とも虹の旗をよろしく願いま
す。友達にもおすすめしてね。



鉛だ、鉛。

鉛は今日も私の足取りを重くさせ、脳の回転を鈍くさせ、私をどんどん不自由にさせる。

それは私の体から分泌されると思われるのだが、全くの透明で目視は難しく、臭いもせず、本当にそこにあるのかわかりはしないが、誰かがそれは鉛だと言った。

私は毎晩シャワールームで必要以上に泡立てたタオルを使ってゴシゴシと鉛を落とす。これがまた重労働なのだ。

そういえば私のシャワールームには大きな大きな洗面台がある。

もともと、使いづらくて仕方がないのでほとんど使っていないのだが。

しかし今朝はいつも使っている方の洗面台が故障したのか、お湯が出なかったのだ。

私は仕方なく、大きな洗面台からお湯を出し、顔を洗い、歯を磨いた。

この時私はある失敗をしていた。

普段は使っていなかったからか、お湯を止めるのを忘れていたのだ。

仕事が終わりに家に帰ってきた私はその音と部屋の異常な湿気でそのことに気がついた。

やってしまったと思った。

大きな洗面台いっぱいにお湯が溜まっている。勿体無いことをした。ああ、勿体無い。

ええい、もうどうにでもなれ。

私は勢いで衣服を脱ぎ捨て、そのお湯の塊に飛び込んだ。

人間の体温よりも少しばかり温度の高い水の塊に体を沈めると、なんということだ、鉛が溶けるのだ。

今日も私を苦しめていた鉛がじわじわと溶け出しているのがわかる。身が軽くなり、脳にも潤滑油が差されたかのような心地良さが広がる。

私はすごい発見をしてしまった。早く誰かに知らせたい、この魅惑の水塊を。

編集後記

—七夕のおねがい—

● 太陽光から紫外線が除かれますように
【特集デスク】 角居風子

● 足が23、せめて225に なりますように
【部活】 川崎梨未

● ポン酢を飲むのを やめられますように
【街角】 安藤大貴

● 英語に強くなれますように
【バズル】 打谷拓巳

● ASKAの執行猶予が 終わりますように
【局長/総代会】 小澤桂介

● 夏がずっと 終わりませんように
【W】 池添展正

● みんなの願いが 叶いますように
【エッセイ/編集後記】 中澤誠

● 整理整頓できる ように なりますように
【KIT/W】 坂根拓海

● 実験で寝坊し ませんように
【期待の新人】 松山建人

● 子猫の飼い主が 見つかります ように
【裏表紙】 松田晃治

● 曲がり角でイケメンと ぶつかります ように
【写真】 清水愛

● 妹が僕のことを「ジョナサン」と呼ばなくな りますように
【ヒーロー】 長野晃宙

● お年玉とサンタ クロースが 復活します ように
【ヒーロー】 船橋勇一朗

● 不服なあだ名が 撤回されます ように
【街角】 家達愛



● 眠らなくても生きていける ようになりますように
【お試し】 濱砂悠

● ハンドボール投げの 記録が伸びます ように
【部活】 加藤有希菜

● 家の陽当たりが 良くなります ように
【ヒロイン】 松木智好

● 肩が凝りません ように
【期待の新人】 加藤陸王

● 蚊がいなくなります ように
【お試し】 北浦綾乃

● 気がついたらお金持ちに なりますように
【裏表紙】 松下千聖

● デイズニーの年パスが 降ってきます ように
【W】 土倉那菜

● /日が25時間 に なりますように
【総代会】 上原麻鈴

● 好き嫌いが なくなります ように
【表紙】 前原茉莉子

● 駅が家に近く なりますように
【ヒロイン】 奥野留惟

次号特集は 『料理』 お楽しみに!